

中区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称				実施主体			
現在からそして未来へ「いのち♡ありがとう」プロジェクト				中保健センター			
事業目的		事業内容		活動指標	R4	R5	R6
中区地域計画の「すべての人が安心して楽しみながら子育てができる区」をめざし、次のことに取り組む。 ○若年出産された保護者や多胎児の保護者が、地域とつながりを持ち子育てに自信を持てるよう子育て支援を強化する。 ①若年出産された保護者の交流の機会を設ける。 ②多胎児の保護者の交流の機会を設ける。 ○関係機関と連携して、いのちの大切さを伝える取組を実施する。		小中学校の児童・生徒に対して、性教育は重要であり、「いのちの健康教育」を学校が円滑に実施できるよう、継続して行政の協力が必要である。若年の保護者に関しては、地域の見守りと併せて、子育てに関する正確な情報を伝える必要がある。中区内の小・中学校・地域等と連携し、自分が価値ある存在であることを感じ自分らしく生きていけるように、いのちの大切さを伝え、自尊感情を高める。また、自分も相手も大切にできる関係づくりが必要なことを伝え、保護者や教職員にも日々の生活の中で伝えてもらう。 ○子どもたちにいのちの大切さを伝える機会は、学校での予算の確保がすみ、学校での取組として定着してきている。そのため保健センターは、この取組が継続できるように小・中・高等学校・地域等と連携し支援を継続する。 ○若年出産された保護者への支援 年4回の教室開催(baby∞star) 保護者自身が楽しみながら参加できる内容とし、地域子育て支援関係者と関係を構築する。 ○多胎児を持つ保護者を対象に年4回の教室開催(ツインエンジェルス) 交流の機会を設け、子育ての悩みの解消や保護者の精神的な支援を図る。 ○「大切な赤ちゃんの命を守る5つの約束」「乳幼児を事故から守る心得」のリーフレットを作成し、4カ月児健診等で配付する。		実施できた機関数	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、集団での健康教育を自粛した。学校訪問や電話等により情報収集し、小学校13校 中学校6校 高校1校実施。 児童養護施設からの性教育の依頼あり出務した。	学校訪問や電話等により情報収集し、小学校13校 中学校6校 高校1校実施。児童養護施設からの性教育の依頼あり出務した。またこども園からも依頼があり、3園出務した。	
				「baby∞star」・ツインエンジェルス参加者数	baby∞star延べ33人 ツインエンジェルス延べ50人（感染拡大防止のため人数制限し実施）	baby∞star延べ15人 ツインエンジェルス延べ48人	baby∞star延べ24人 ツインエンジェルス延べ18人
①妥当性		②協働の視点		③インパクト		④効率性	
○	若年の保護者同士の交流を行うことで、社会参加のきっかけづくりとなり、支援者とのつながりをもてる。また、多胎児の保護者の交流では、多胎児ならではの悩みを共有できる場を確保し安心した子育てができるように支援できる。区主体で当事業を実施し、対象者の交流をきっかけをつくり、交流を促進することが子育て支援につながっていることから、妥当性がある。	◎	区内の小・中・高校・こども園や児童養護施設等と連携することで、性に関する教育の必要性が、地域で幅広い年齢層のこどもたちに認識されている。 baby∞starに関しては、主任児童委員に参加してもらい、若年の保護者と地域をつないでいる。またツインエンジェルスでは、地域の多胎児育児経験者を講師として招き、育児スキルを活かし実施している。	○	主任児童委員に加え、区独自の取組として本事業に、地域の多胎児育児経験者を講師として招くことにより、子育ての孤立化を防ぎ、地域で安定した子育てができるように、若年の保護者や多胎児の保護者を地域につないだ。	○	性に関する教育の必要性やいのちの大切さについて、区内の小・中・高校・こども園や児童養護施設等と連携して啓発することで、効率的に実施することができた。
⑤自立発展性		総合評価					
—	小中学校の児童・生徒に対する性教育は重要であり、「いのちの健康教育」を学校が円滑に実施できるよう、継続して行政の関与が必要である。若年の保護者に対しては、地域の見守りと併せて、子育てに関する正確な情報を伝える必要がある。 また、多胎児は、妊娠・出産・育児にかけて、身体的にも心理的にもリスクが高く、子育てに関する悩みも多岐にわたっており、専門職が関わる必要がある。これらの通り、本事業については、行政の関与が必要であり、検証にふさわしくない。	○	baby∞starやツインエンジェルスについては、参加者からの意見を聞きながら、ニーズに合った取組ができた。事業参加者は減少しているが、参加できていない対象者の方に対しても、電話や面談を行う中で、必要な支援につなげるよう努めており、個別対応ができています。ツインエンジェルスについて多胎児育児経験のある講師を中心に、育児の悩みや大変さを共有できる場となった。				
今後の方向性（課題、改善提案等）							
拡充 継続 見直し 廃止	平成21年から開始した保健センターの「いのちの大切さを伝える」という取組が、『現在からそして未来へ「いのち♡ありがとう」プロジェクト』によって発展し、保健師・助産師・養護教諭・地域が一体となって取り組んできた。すべての人が安心して楽しみながら子育てできるよう、今後も取組を継続する。引き続き学校や地域との連携を通じて、発達段階に合ったいのちの教育が円滑に実施できるように情報共有をしていく。 各事業の参加者を増やすことを目標として早期に郵送や個別での電話勧奨を行う。対象者が、地域とつながりを持ちながら育児できるように、引き続き主任児童委員の協力をいただき、また助産師と連携しながらいのちの大切さを伝える教育も継続していく。 また、若年の保護者や多胎児の保護者ならではの、子育ての大変さや悩みを共有できる場とし、参加をきっかけに地域のネットワークの中で楽しく子育てできるよう継続していく。						